

BASE Vol.123

実践的基礎知識 育てる投資編(4)

2020/08/20

<株式投資のリターン ～長期投資ではインカムゲインが力強い下支えに～>

株式投資のリターン ～長期投資ではインカムゲインが力強い下支えに～

資産を成長させることを目的とした「育てる投資」の代表格はやはり先進国株式や世界高配当公益株式をはじめとする株式投資です。今回は、「育てる投資」を考えるうえで大切な株式投資のリターンの特性について解説します。

株式投資のリターンの特性

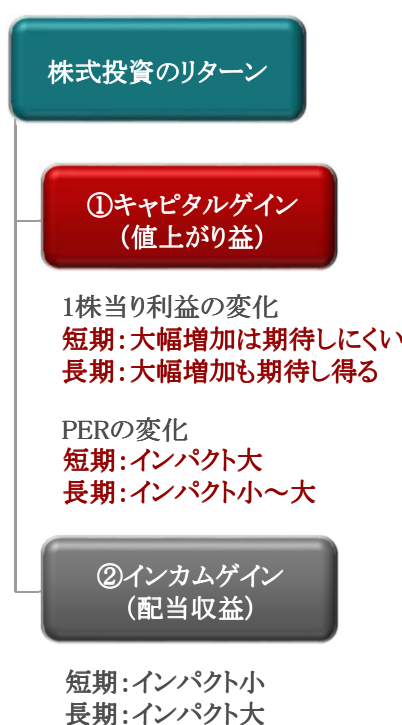
～キャピタルゲインとインカムゲイン～

株式投資のリターンは大きく分けて①キャピタルゲイン(値上がり益)と②インカムゲイン(配当収益)とに分けられます(図表1)。

配当収益が積み上がるには時間がかかるため、短期間のリターンにはあまり大きなインパクトを与えませんが、長期的に見ると非常に大きなインパクトがあります。配当収益は時間が経つにつれて積み上がっていき、中期的なリターンを下支えしてくれます。また、配当の原資となる企業収益が増えていくことで配当金額が増えることも期待できます。これは債券投資との大きな違いの1つです。

一方、キャピタルゲインを産み出す株価の変動は、1株当たり利益の変化とPERの変化に分けることができます。企業の利益が変わらずに株価が刻一刻と変化するのはPERが変化しているということです。短期間では、企業利益が大幅に増加することはあまり期待しにくいですが、中長期的には大幅な利益増加も期待できます。このため、短期間の株価変動はPER変化のインパクトが非常に大きくなります。

図表1:株式投資のリターン特性のイメージ図



当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく、元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。※当資料で使用したMSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

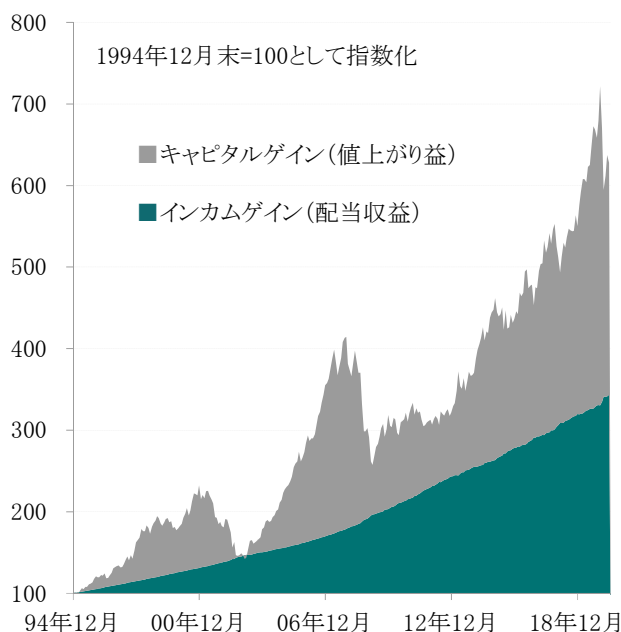
長期投資ではインカムゲインが力強い下支えに

図表2は世界公益株式のリターンを、キャピタルゲイン(値上がり益)とインカムゲイン(配当収益)に要因分解したグラフです。

このグラフを見ると、キャピタルゲイン(値上がり益)は株価変動によって大きく変動していますが、インカムゲイン(配当収益)は長期投資することで着実に積み上がり、リターンを下支えしてくれていることが分かります。

図表2: 世界公益株式のリターンの推移

(月次、期間: 1994年12月末～2020年6月末)



※配当金再投資分は配当収入と値上がり益に按分。

※世界公益株式の投資収益は現地通貨ベース、再投資ベース

※世界公益株式: MSCI世界公益株価指数

出所: リフィニティブ・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。